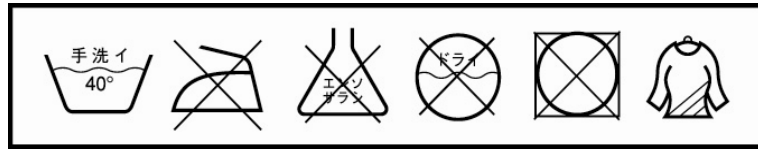
9. お手入れ方法

- ◆ 洗濯の際には40℃以下の水と中性洗剤を使用し、手洗い、陰干しをしてください。
- ◆ 面ファスナーはフックとループの接着機能を保つため、洗濯前にはフックとループを閉じてください。
- ◆ 洗い終わったら、洗剤が残らないように充分に水ですすいだ後、製品のシワを軽く伸ばし、陰干ししてください。
- ◆ 塩素系漂白剤、洗濯機、脱水機、乾燥機、ドライクリーニングなどの使用は行なわないでください。

10. 廃棄方法

本製品を廃棄する際には、各自治体の廃棄区分に従ってください。

11. メーカー責任

オットーボックはメーカーとして、指定された加工および取扱方法、ならびに、適切な手入れ方法とメンテナンス間隔に従って製品を使用する場合にのみ、その責任を負います。（本説明書とカタログを参照）。 推奨していない使用方法が原因による故障については保証いたしかねます。オットーボックはまた、本取扱説明書の指示に従って製品のメンテナンスを行っていただくことをお勧めいたします。

12. CE 適合性

本製品は欧州医療機器に関するガイドライン 93/42/EEC の要件を満たし、ガイドラインの付表Ⅸの分類基準により、医療機器クラスⅠに分類されています。オットーボックは、ガイドラインの付表Ⅷに則り、本製品がCE規格に適合していることを保証いたします。

（注）但し、日本においては、本製品は医療機器の分野には分類されていません。

お問い合わせ窓口：

輸入元：オットーボック・ジャパン株式会社
〒108-0023 東京都港区芝浦 4-4-44 横河ビル８階

5065 オモ ニューレクサ
取扱説明書

本取扱説明書に使用されている記号の説明

【注意】 事故または損傷につながる危険性についての注意
【注記】 技術的な破損につながる危険性についての注意
【備考】 装着や使用に関する追加情報

義肢装具士の方へ

本製品を安全にお取扱いいただくために、写真・図を参照しながら本取扱説明書をよくお読みください。また、必要な際に参照できるようお手元に保管してください。
装着者の方へ、装着方法、使用上の注意、お手入れ方法などをご案内ください。

1. 使用目的

『5065 オモ ニューレクサ（以下、本製品）』は肩関節にかかる負荷を軽減するための、上肢懸垂用肩関節装具です。

2. 適応・用途

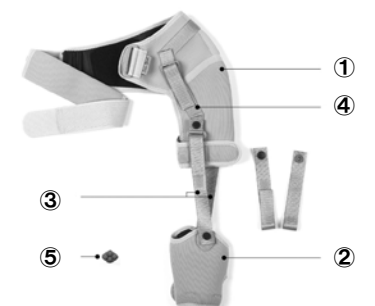
本製品は、各種疾患に伴う神経症状により起因した、上肢・肩関節の機能不全や障害などにより肩関節にかかる負荷を軽減するための上肢懸垂用肩関節装具です。（図1）。
本製品は、主に日常生活活動時に使用されることを前提にしていますが、夜間時の肢位保持装具としての使用も可能です。夜間に使用される場合には、必ず医師の指示に従ってください。

＊ 適応については、必ず医師の診断を受けてください。

3. 特徴

本製品は、主に『ショルダーカフ（①）』および『前腕カフ（②）』の2つの部品から構成されます。『ショルダーカフ』と『前腕カフ』は、前腕の動きを制動するために配置された2本の『懸垂ストラップ（③）』により、連結されます。（『懸垂ストラップ』は梱包時にロングタイプが取付けられていますが、別途付属品として1組のショートタイプが同梱されており、長さの調整が可能です。）
『ショルダーカフ』には他に1組の『補助ストラップ（④）』が取付けられています。各ストラップの取付け位置を調整することにより、わずかに肩関節の外旋調整をすることも可能です。

図 1

『ショルダーカフ』と『前腕カフ』は本製品の適正な機能が発揮できるよう、常に正しい位置で装着してください。
本製品にはオプション品として、上肢の機能不全に伴う各筋群を局所的に押さえるための『シリコンパッド（⑤）』が付属されています。『シリコンパッド』は面ファスナーによりサポーター本体に簡単に取付けることができます。使用例としては、菱形筋や僧帽筋下部もしくは広背筋上部などを押さえるような位置に来るように本体に取付けます。使用される場合には、適切な指導のもと活用してください。

4. 禁忌事項

以下の疾患および症状を伴う場合は、本製品を装着する前に必ず医師に相談してください。

- ◆ 製品を装着される部位の皮膚疾患、異常および損傷、または炎症などが見られる場合。
- ◆ 装着部位から離れた場所に、不明瞭な浮腫などを含むリンパ管の流れに対する異常が見られる場合
- ◆ 四肢の循環器系の異常、および知覚異常が見られる場合

5. 安全についての注意事項

【備考】

装具の使用に対する装着者の同意と協力は、適正な装着、定期的な診断および装具の調整において重要となります。 本製品の主要な機能、装着方法、取扱い方法、及び以下の注意事項について必ず装着者に説明を行なってださい。

- ◆ 本製品を初めて装着される際には、必ず医師、義肢装具士などの医療従事者による調整が必要となります。
- ◆ 装具の使用に関しては医師や義肢装具士の指示に従ってください。
- ◆ 1日の使用時間および長期に渡る使用期間は、医師の指示に従ってください。
- ◆ 製品が著しく磨耗や破損をしている場合は、製品の適正な装着ができないおそれがありますので、使用しないでください。
- ◆ 必ず、装着部位の皮膚状態が良好であることを確認してください。
- ◆ 本製品は、カフの裏地に滑り止め加工が施してありますので、そでのない下着などを着用した上に装着することをお勧めします。

【注意】

不適切な状況での使用による不具合について ：

- ◆ 本製品は、お一人の装着者に対してのみご使用ください。 同一製品を複数の方が使用することより、衛生面だけでなく機能面にも危険を及ぼす可能性があります。例えば、素材の磨耗、亀裂、変形、繰り返し使用による材質の疲労などです。
- ◆ 装着前、もしくは装着により異常な症状が見られる場合には、直ちに使用を中止し、医師に相談してください。
- ◆ 製品を調整する以外に、加工、改造、修正は行わないでください。
- ◆ 必要以上の力で締め付けて装着された場合、過剰な圧迫が加わり周辺の血管や神経の機能を阻害するおそれがあります。装着者に合ったサイズを選択し、適切な調整を行ってください。

【注記】

不適切な環境での使用による破損について ：

- ◆ 本製品は不燃性ではありません。本体を火気や熱源に近づけたり、急激に温度が上昇するような場所に放置したりしないでください。
- ◆ 本製品がグリース、酸性剤、軟膏、ローションなどの薬品類に触れないようにしてください。

6. 装着方法と調整方法

本製品を初めて装着される際には、必ず医師、または義肢装具士などの医療従事者による調整が必要となります。

また、より適切に装着していただくためにも、医療従事者の方などが装着の補助を行なってください。

サイズの選択

本製品は腋下の胸部周径を測り、サイズおよび左右を選択してください。

装着方法

① 本体に装着されている面ファスナーを外し、肩関節に配置させます。『ショルダーカフ』を肩に置いてから、上腕部分の面ファスナーを留めます(図2)。

② 『ショルダーカフ』の縫い目部分は肩関節腔(図3の手を置いた位置)よりも下に位置させます(図3)。 この後の装着手順においてさらに適合されることで、上肢が望ましい肢位に引き上げられるため、縫い目部分は関節腔に近づき、適正な位置に装着することができます(図4)。

図2

図3

図4

③ 『ショルダーカフ』の幅広いベルトを反対(健常)側の腋窩に通して、胸の前面で面ファスナーを留めます(図5)。ベルトに付属の腋窩パッドをスライドさせて適切な位置に合わせて下さい(図5-1)。背面のベルトも調整し、できる限り肩甲骨を覆うように面ファスナーを留めます(図6)。

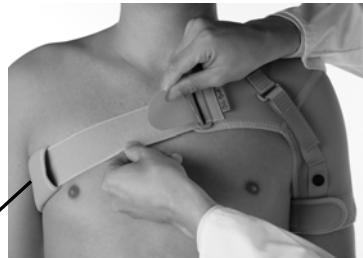



図5

図6

④ 前腕を回外位(掌を上に向ける方向)に保持して、『前腕カフ』の面ファスナーを留めます(図7)。『前腕カフ』は肘関節に近い位置で装着しますが、肘頭からは間隔を開けて配置させてください(図8)。

⑤ 『懸垂ストラップ』の長さ(ロングタイプとショートタイプの2種類)を選択し、『前腕カフ』と『ショルダーカフ』を連結させます(図9)。梱包時にはロングタイプの『懸垂ストラップ』が本体に取り付けられており、別途ショートタイプ1組が同梱されています。各ストラップには色の異なる(黒色と金色)ボタンがそれぞれ付いています。正しく簡単に装着できるよう、図では、前面側に黒色ボタン、背面側に金色ボタンを取付けています。(図9-1)

⑥ 前後2本のストラップの長さを慎重に調整し、肘関節軽度屈曲位、肩関節外旋位に保持させます(図10)。

図7

図8

図9

図10

⑦ 装具が適切で機能的な位置に装着されており、装着上の不具合が無いことを確認してください(図11)。

⑧ 『ショルダーカフ』の2本のストラップの微調整をします。症状により下垂した上腕骨頭の位置を、上方に引き上げます(図12)。

⑨ 必要に応じて、オプションの『シリコンパッド』を、『ショルダーカフ』の背中部分の裏側、筋の押さえたい部位に配置させます(図13)。

⑩ リラックスして起立した状態で、装具全体にシワやたるみが無いか、全体を強く締めすぎていないかなどに注意し、正しく調整されることを確認してください。

図11

図12

図13